

サッカー大好きで～す



サッカーを楽しみ、その魅力を子供たちに知ってもらおうと平成12年7月、白石サッカー協会(佐藤浩会長、会員70名)を設立しました。市内には中学・高校はもとより、スポーツ少年団や企業・愛好者のサッカーチームがありますから、それらとの連携を図り、組織的にサッカーを普及することも大きな目的です。年間の活動は主に、「中学生やスポーツ少年団の交流大会」、小・中学生対象の「ベガルタ仙台サッカー教室」、「協会会員の交流試合」、元旦の「けり初め」などいろいろです。技術や体がうまく動かなくても、気持ちを一つにしてパスをつなく、走る、シュートする。終わったあとのさわやかな汗、充実感、そして明日へつなぐ活力。何ともいえない喜びです。世界各国で親しまれているサッカー、やってみなければ分からないこの楽しさ。皆さん、ぜひ加入して一緒にサッカーをやしましょう。問佐藤芳徳 ☎25-5657

市民文芸 応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市宇直町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋辰男選

いつの日か二人で旅する夢をみて地図を広げるこたつの上に 鈴木 節子
 吊し柿揉みつつ食べた味のよさミネラルいっ 村山美代子
 ばい陽さしを浴びて 斎藤 光子
 菊の苗くれし親しき友遊けり大事に育てよう 水戸 光穂
 友と書いて 斎藤 光子
 水墨画見ているような雪景色露天に眺む銀山の宿 水戸 光穂
 仲の良き夫の忌日に老妻があと追うように天に召されぬ 佐藤 とく
 返り咲きのつつじ愛で行く散歩道わが前よぎる雪虫一つ 山田 風流
 病む孫を氣遣いでする長電話妻は己れの病氣忘れて 高野 伝
 生かされて目覚めし朝の清しさよ老いの一日の力湧き来る 石沢 敏子
 雪の蔵王見つつ夫と小春日を今年最後の墓参を済ます 高子うこん
 遠き日に吾子を背負いて町医者に通いし日々はバスもなかりき 川村 静恵
 評 一首目。こたつに地図を広げ旅を夢見るお二人。ぜひ実現してほしいと思つ。二首目。ミネラルをいっばい含んだ白石特産の健康食品、つるし柿賛美の歌。三首目。いわば友の形見の菊の苗で作者の厚い友情がこもっている。一首だけ投稿する方がいますが、採用の確率からいっても、三首まとめて提出してください。

俳壇

遠藤秋尾選

いつもある所に父の冬帽子 佐藤 周子
 雀等に餌をやる日課一茶の忌 山家 弘子
 祢宜今朝も掃き清めけり神迎 山下 文
 ユニホーム先生囲む落葉焚 制野 文

柳壇

山田風流選

煤掃きやぶた汁たぎる外厨 川村 静恵
 喪中の書届く師走でありにけり 高子たちばな
 さざんかの桃色土に美しく降り 田崎 エイ
 荒々し風に渦巻く落葉かな 大庭 良子
 山茶花はひっそりと散る庭の隅 遠藤 忠臣
 銀山や浸る湯槽の外は雪 水戸 光穂
 評 一首目。父の帽子はいつもの所にある冬帽子、夏になればまたその場所にある。冬帽子を通して家族のぬくもりが感じられる。二首目。一茶忌の句。小林一茶の「雀の子そのけそこのけお馬が通る」の句がある。雀と一茶の取り合わせが面白い。三首目。十一月の晦日に出雲大社から神々が還ってくる日である。今日はことさら美しく社の内外を掃き清め、神を迎える神官の姿を一句に。

有難さつくづく分がる妻の留守 水戸 光穂
 結び目もすずきはきをする年の暮 米沢 礼子
 新世紀皇居におりたコウノトリ 四電 英夫
 皇室に一足早い春が来た 大庭 良子
 劇的な事件ばかりの新世紀 平間 大恵
 更年期残り火ときどき燃えあがり 佐藤 尚志
 要精検結果でるまで断つお酒 高橋 要一
 親よりも口が上手な子に育ち 草野 清
 古希過ぎてチャンで呼び合う幼な友 大沼 妙子
 病んでいるけれど元氣と書く年賀 小野嘉津子
 評 一首目。年経ることに夫婦の間柄は空気のようなもの、いないとオロオロするばかり。二首目。夫婦だから放つていても、ではない。少なくとも年に一度くらいはススを掃いたり、注油をしたりすべし。三、四首目。暗いニューイースばかりのところへ、花火のような明るいニュース。九年目の皇孫誕生、まずはめでたし。短詩は省略の文学、スルメのような余韻のある味が出る作句をしたいものです。

国際コーナー International Corner



ジャロドの
 今月は姉妹都市ハーストビル市との交流行事についての話をします。
 ハーストビル市はシドニーから西方16kmに位置しています。人口は7万人で、豊かな緑にレンガ造りの建物が立ち並ぶ美しい街です。
 白石市はハーストビル市と平成6年10月23日に姉妹都市を結びました。それ以来、毎年いろいろな交流行事が行われています。
 毎年7月に白石市内の中学生がオーストラリアに行って、ハーストビルをはじめ、シドニーやキャンベラなどを見学します。ホームステイしながら、体験入学などをするので大変勉強になると思います。
 9月にはハーストビル市内の中学生が来白し、1週間くらい白石市内の家庭にホームステイします。この子供たちはオーストラリアで日本語を勉強していますので、大変日本に興味を持っています。

す。このときは、白石城や碧水園、松島、仙台などを案内しています。
 次の交流会は、スパッシュランドで開かれる「国際交流親善水泳大会」で、ハーストビル市とニュー・サウス・ウェルズ州から水泳選手が来白します。海老名市と登別市の選手も参加しますので、4つの姉妹都市の交流のためにとてもいい大会だと思います。
 両市の市民同士の交流も交互に行われています。去年の4月にハーストビル市民団が来白しましたので、今年は秋に白石市民団がオーストラリアに行きます。チャンスがあればぜひ、行かれていますかでしょうか。
 まだまだ寒い日が続きますので、体に気を付けてください。それではまた来月。
 See you next month!

20歳輝く明日へ!

成人式

御礼の言葉を述べる
 小室貴寛さん(小原)
 八重樫知歩さん(松ヶ丘)



517名が大人の仲間入り

1月13日、平成13年度の成人式が中央公民館で行われ、晴れ着やスーツ姿の若者たちの笑顔でいっぱいになりました。
 今年の新成人は517人。式典は、新成人の代表者に市長、議長など来賓から記念品の贈呈があり、これに対し、新成人の代表2名が御礼の言葉を述べました。式典後のアトラクションでは、市



いつまでも緑多いふるさと白石を願って 募金



アトラクション「和太鼓」

内郡山の半田孝夫さんが代表を務める和太鼓グループ「幻創」が迫力のあるパチさばきを披露し、20歳の門出を祝いました。
 また、大人として社会に貢献したいという新成人自らの意志として募金を行いました。集まったお金は、南蔵王山ろくで森の復元に取り組んでいるNPO法人「蔵王のブナと水を守る会」へ寄付されました。